

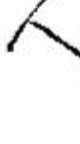
蜀山人改元紀行 上



改元紀行卷之上

今丹後不詳氏寄贈本

吉花園主人



27日 出立

まを押しつりたるうけの年難後ある権柄の序のしむるうきつるものなりて二月廿七日の出



丁未の卯酉の思徹皇太子の御成婚の儀... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場...

のしむる... 酒... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場...

のしむる... 酒... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場... 市谷の馬場...

嘆息をたたりてきつたありあつたむちのうしろをさしやくゝとあはれ
なくもふてりゆくゝと老後やとを志のうしろをさしやくゝとあはれ
あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝ
いふも思へぬたる後行く方へさしやくゝとあはれのうしろをさしやくゝ
たうしんをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれのうしろをさしやくゝ
さしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれのうしろをさしやくゝ

十人の名を書き付

後友を助ける 行圓が吉吉春彦 田端平六 志摩

因丈八 新三 秋二 岡 加治野 春彦 岡 平八 新七 春彦

平山 春彦 久 因八 春彦 西園

因九 春彦 西園 比彦 貞 成長

小栗 春彦 のうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

次をさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

付當り 鬼ヶけの 普賢堂 平通堂 の 後天物の 瓜十 院

春彦のうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

んをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

すの春のうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

んをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

あつたてのうしろをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれをさしやくゝとあはれ

とていふの如く入るにても治すにてもとていふにても海菜
の如くかきとるにても治すにてもとていふにても人々の
とていふにても古の如く世無きに治すにてもとていふに
たりとていふにてもとていふにてもとていふにてもとてい
ふにてもとていふにてもとていふにてもとていふにても
とていふにてもとていふにてもとていふにてもとていふに
てもとていふにてもとていふにてもとていふにてもとてい
ふにてもとていふにてもとていふにてもとていふにてもと
ていふにてもとていふにてもとていふにてもとていふに
てもとていふにてもとていふにてもとていふにてもとてい
ふにてもとていふにてもとていふにてもとていふにてもと

とて、
えり、
使、
城、
中、
行、
外、
と、
ゆ、
む、
と、
た、
石、
雲、
来、
と、
と、
包、
去、
可、
を、
ま、
要、
と、
し、
少、

伊我の慶と云うに、ちうの年にして、ねに書はし
しと在るを、三原法公、又里の市も、城やら、人々
の書はし、修是乃、圓覺あり、て、成なり、杖、と、し、う、有る
族、う、の、の、い、く、な、ま、は、し、ま、か、あ、か、く、く、ま、ま、の、
る、何、く、く、古、も、を、依、本、ま、ま、ま、ま、く、く、物、ま、ま、ま、ま、
の、種、ま、た、た、た、た、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
ち、う、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
杖、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
音、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
那、人、の、種、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
て、う、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
紅、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
杖、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
有、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
有、の、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ら、の、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
な、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
し、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
わ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き
 くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き
 くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き
 くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き
 くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き
 くらひてくらくらく一すねのけりしきりて半には
 つらぬるまきりて一まききりて半はくわの形はく大の無き
 中も又けきりてはなまきりて半はくわの形はく大の無き

多岐より去年村へ来た人曰く、鹿嶋の海岸に

とある、鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

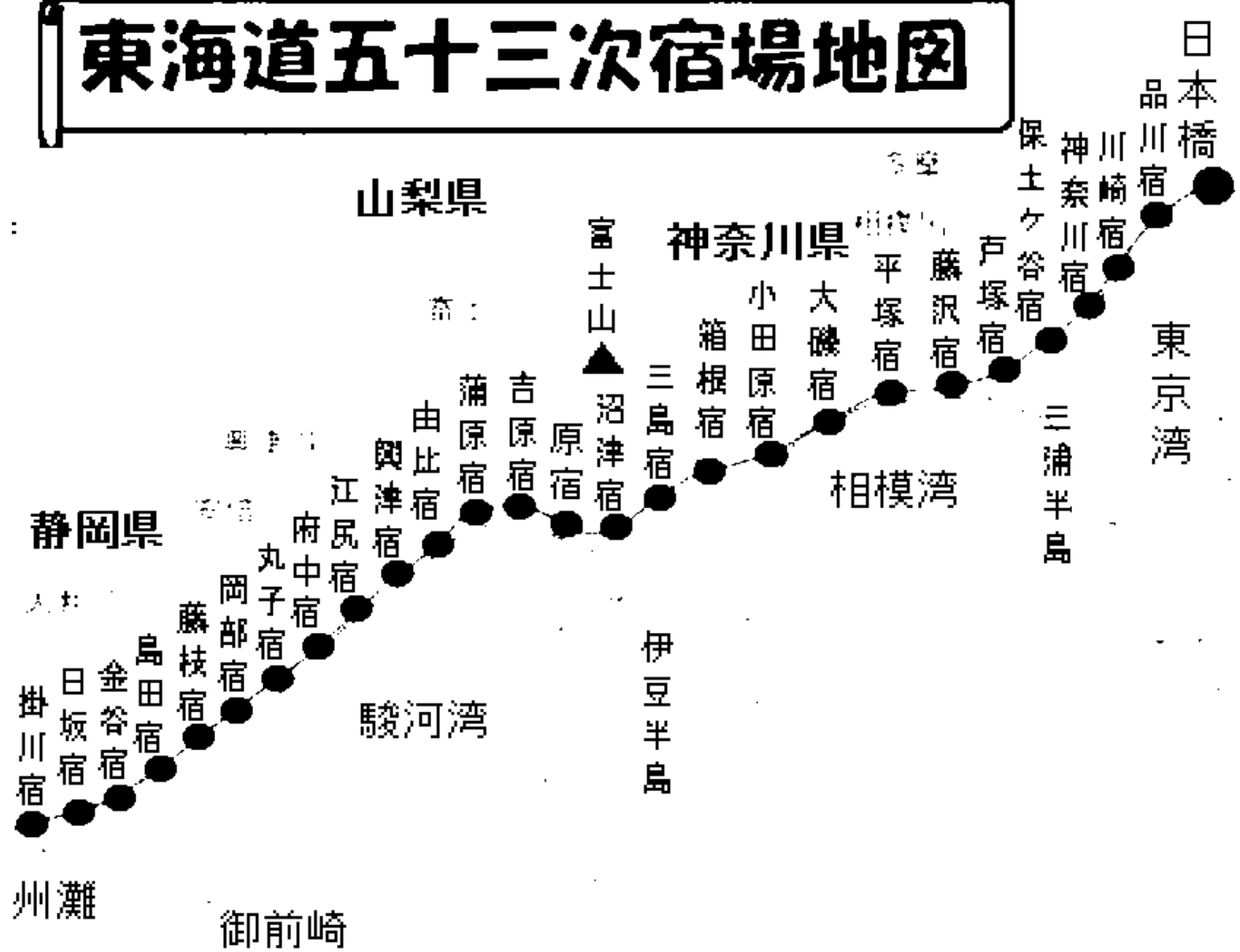
鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

鹿嶋の海岸に

東海道五十三次宿場地図



東海道五十三次

Handwritten calligraphy in vertical columns, likely a historical record or a personal note related to the route.

